



# 大田区

面積 .....60.83km<sup>2</sup>  
 世帯数 .....400,825世帯  
 人口 .....738,128人  
 (うち外国人).....25,396人  
 予算 .....2,874億円  
 職員数 .....4,270人



はねびん

大田区公式PRキャラクター



松濤園(池上本門寺)

東京都旧跡指定を受ける遠州流の池泉回遊式庭園です。園内には「西郷・勝両雄会見之処」碑があります。



大田区立勝海舟記念館

国登録有形文化財である旧清明文庫を保存・活用しながら増築し、全国初の勝海舟記念館を開館しました。



大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」

毎年8月15日に多摩川河川敷で行われる「花火の祭典」。たくさんの人が集い、平和のひとときを共有します。

## 歴史・見所・名所

大田区は、昭和22(1947)年3月15日に大森区と蒲田区の合併により誕生しました。区名は両区から一文字ずつ取り命名されました。大森貝塚が示すように、大田区には古代から人々が暮らし、江戸期には海苔の養殖が盛んに行われました。また、東海道の街道筋に当たっていたため、人馬の往来で賑わいました。大正期以降は製造業などの中小工場が集積して戦後の経済成長を支え、現在も「ものづくりのまち」として知られています。昭和38(1963)年には、海苔の養殖が幕を閉じ、臨海部には羽田空港や大田市場など物流施設が整備されました。台地部は田園調布をはじめ緑の多い住宅地となっています。

関東で最古の五重塔がある池上本門寺や、尾崎士郎、川端康成、村岡花子など多くの芸術家に移り住んだ「馬込文士村」では、歴史を感じながら散策が楽しめます。池上梅園、桜坂、多摩川台公園のあじさい、田園調布のイチョウ並木、羽田漁師町の風情、蒲田・大森の繁華街、商店街、黒湯温泉なども見所です。

また令和元年度において、中央防波堤埋立地に、新たに「令和島」が誕生し、今後の空港臨海部と一体となったまちづくりを行ってまいります。

## 概要

大田区は、日本の空の玄関口である羽田空港を擁する区として、国内外の都市との交流を積極的に行い、観光や多文化共生などを充実させて、「住んでよし、訪れてよし」のおもてなしの心と魅力があふれる「国際都市おおた」を目指しています。

また、勝海舟が愛した洗足池、江戸無血開城に向けた交渉が行われた松濤園など、時代の躍動を感じられる史跡にあふれており、令和元(2019)年には全国初の勝海舟記念館を開設しました。

高度な技術力を持つ多くの町工場、賑わいのある商店街、田園調布に代表される美しいまちなみや多摩川などの自然、歴史ある伝統文化、手軽に楽しめる多国籍グルメなど、多彩な魅力にあふれ、「東京の縮図」ともいえるまちです。

誰もが暮らしやすいまちにするため、区民、自治会・町会、事業者やNPOなどの団体との連携・協働により「地域力」を発揮し、魅力ある地域を創造する区政運営をしています。

## 主要課題

- ① 近年、国内では地震や台風、集中豪雨など大規模自然災害が繰り返し発生し、大田区においても、令和元(2019)年台風第19号による大雨で一部地域の家屋が浸水するなど、大きな被害が発生しています。区はこれまでの災害から得た教訓を踏まえ、ハザードマップの

改訂、水害時緊急避難場所の増設、倒れない・燃えないまちづくりの推進、区民との連携による地域防災力の強化を図ってきました。併せて、感染症対策のための物品を避難所に配備するとともに、マニュアルの見直しをする等、総合的な防災力・災害対応力を強化する取組みを継続していきます。

- ② 安心して子どもを産み、育てられる環境を整えるため、質の高い多様な保育サービス基盤の充実を図ります。加えて、子どもたちの生きる権利や育つ権利を守るために、児童相談所の開設に向けた取組みも進めます。

また、小学校の学習指導要領の全面実施に伴い、小学校でプログラミング教育が始まりました。今後、グローバル化やAIなどの技術革新が一層進展することを踏まえ、小・中学校におけるICT環境の整備をより一層促進していきます。

- ③ 国際拠点空港である羽田空港の沖合展開事業によって生じた羽田空港跡地第1ゾーンについては、区内産業の活性化はもとより日本全体の経済成長や国際競争力の強化に寄与する「新産業創造・発信拠点」の形成を進めています。

令和2(2020)年7月3日には第一期事業として公民連携により整備を進めている「HANEDA INNOVATION CITY(羽田イノベーションシティ)」が開業しました。令和4(2022)年の全施設開業及び道路などの都市基盤施設の完成に向けて、今後も国、東京都や独立行政法人都市再生機構などの関係機関との連携を深め、着実に事業の推進に取り組んでいきます。

- ④ 生産年齢人口の減少が見込まれる中でも、的確な行政サービスを提供し、住民福祉の水準の維持及び向上を図っていくためには、既存の行政運営手法の枠を超えた取組みが必要です。今後は、様々な分野における公民連携の推進、「新しい生活様式」を踏まえ、ICTやAI、テレワークを積極的に活用した働き方改革や生産性の向上を通して、持続可能な行政サービスの提供に取り組んでいきます。

## 将来展望

平成20(2008)年10月に策定した「大田区基本構想」に掲げる三つの基本目標と九つの個別目標の下、区の将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」を実現するための取組みを推進しています。

- 基本目標1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち(子育て・教育・保健・福祉領域)

出産から高齢期までのライフステージに沿って、子育て、教育、健康づくり、障がい者や高齢者への支援、スポーツ振興、生涯学習、人権擁護などに関する取組みを推進

- 基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市(都市基盤・空港臨海部・産業領域)

地域特性を活かしたまちづくり、交通ネットワークの整備、公園や緑の拡充、災害に強いまちづくり、国際交流、産業支援、観光振興などに関する取組みを推進

- 基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち

区民協働、区民活動への支援、支え合うまちづくり、地域文化の創造、防災・防犯力の強化、地球温暖化対策、効果的・効率的な区政運営などに関する取組みを推進



ユニークおおた

シティプロモーションを展開していくためのブランドメッセージ



国際都市の玄関となる羽田空港

アジアの拠点として、日本の玄関口として、首都東京の価値を高めるとともに、おもてなしの心と魅力があふれる「国際都市おおた」を目指しています。



羽田イノベーションシティ  
先端産業と文化産業の融合が体験できます。



令和島(――で囲われている区域)

東京港の物流機能強化のため、コンテナターミナルが整備されています。



大森ふるさとの浜辺公園

入江や干潟を持つ都内で初めての区立海浜公園です。隣には、大森海苔のふるさと館があり、海苔づくりの歴史を知ることができます。